

大谷學會秋季講演會挨拶

赤 沼 智 善

これより開會を致します。今日は御多忙中御繰り合せ下さいまして、かく多數御來會下さいましたことは主催者共致しまして非常に喜ばしいことであり、厚く御禮を申し上げます。

開會に當りまして大谷學會が今回秋季講演會を開催致し、寺本石濱の兩氏に西藏に關する御講演を御願ひ致しましたに就いて、一言申し述べて置きたいと思ふのであります。

大谷學會は御承知の通り、先に西藏に關する研究の特輯號をこの九月に刊行致したのでありますが、何の見るどころあつて、かくの如く致したかミ申しまするに、一は多年に亘る西藏研究者の御努力に依り、一つは佛教學界の研究の趨勢に依りまして、西藏の研究、もつ

正確に申しますならば西藏佛教の研究が、佛教それ自體の研究に取りまして必至的になつて參つたこと信じたからであります。西藏佛教からの研究が、佛教それ自體の研究に一層の確實性を與へるに云ふことが佛教の研究にたづさはる總ての人々によつて明かに認識されて來たこと信じたからであります。佛教思想の開展を正確に理解致しまするには、佛教經典史の研究なしには完全になし得られない筈であります。又この經典史の研究に相並んで、龍樹無著世親その他、印度の有名な菩薩論師方の著述を精密に研究することなしにはなし得られない筈であります。さうして今日では研究者の何人でも、この經典史の研究、印度の諸論師方の研究に於て、西藏譯の對照なしには完全になし得られないも

のであることを痛切に感じてゐられる筈であります。嘗ては西藏研究云ふものは、一つの誠に結構な佛教國である一樂土の研究、あの大亞細亞の山奥の祕密な鎖國の民族の研究といふやうに、民族學上の意味や又は政治的な意味が多分にあり、佛教の研究といふ方面からしては何となくアイソレートしてゐたやうでありましたが、それが西藏研究の先覺者の方々の多年の御努力に依り、西藏佛教の研究が佛教自體の研究に取り、必至的なものであることが明かにされ、今や佛教學界はこの事實を十分に認識致しまして、その全力を擧げて西藏研究に依つて、佛教自體の研究の確實性を握らうと志してゐる様な状態であるに信するのであります。大谷學會はこの佛教學界の事情を認めて、先きに西藏佛教に關する研究の特輯號を公刊した次第であります。

又一方我が大谷大學圖書館に於きましても、數年前よりこの點に留意致しまして、寺本教授の生涯の仕事である云はれて居りました西藏藏經の勸同目錄を、寺本教授と櫻部文鏡氏に依頼致しまして、兩氏の異常な努力に

精密な研究に依りまして、寺本教授將來圖書館所藏の北京版西藏藏經の甘殊爾目錄を完成致し、その第一冊を此の九月に公刊致したのであります。

東北帝國大學に於ても、この目錄の作製と出版とが計畫されて居るといふことではありますが、これは恐らく日本の佛教徒のみがなしうる、又なさねばならぬ一つの仕事であつて、この發表は佛教の研究にまゐりまして一つのエポックを作るものであると申ししても強ち過言ではないに信するのであります。大谷大學が佛教學界にこの一つの大きな寄與をなしましたことは、寺本教授櫻部氏の努力に依ることではありますが、又佛天の冥助に依ることであるに感謝致して居る次第であります。

かくの如く、先に大谷學會に於ては西藏佛教に關する研究の特輯號を出し、圖書館にては、カンヂェール目錄を出版したのでありますが、今それに引き続きいて學會のこの講演會を開催した次第であります。特に私共大谷大學の學にたづさわるものに取りまして愉快なことは、今春法主臺下の獎學の御精神からして、西藏の班禪喇嘛將

來のナルタン版カンデユール、タンデユール一切を御購入の上、本學へ御下賜に相成つたことであります。圖書館が今日明日に亘りまして、可成りスケールの大きい、又意味の相當に深い展觀をなし得ますことはこの尊い御下賜があつたからであります。皆様の御覽下される通り、本學には先きに寺本教授將來の北京版藏經がありますので、それに京都帝國大學御所藏のデリゲール版を拜借致しまして、茲に西藏藏經の三版を一緒に並べて展觀することが出来るやうになつたのであります。三版にはそれぞれ各自の特長があることでありますから、三版を並べて合せ見るこゝが出来るといふことは、恐らく將來、西藏佛教研究の當然なさねばならぬ一つの基礎工事である西藏經典の完全な校合を経た底本としてのテキストの刊行を見るに至るであらうと信するのであります。

猶この講演會を展觀に因みまして、圖書館では明治以來の日本人の西藏に關する研究論文及び著書の目録を製作して見ましたが、實はその研究が豫想外に量に於て

多く、範圍に於て廣いのに一驚を喫してゐる次第であります。その中に於て我が寺本教授の研究の發表がその數に於ても量に於ても又範圍に於ても多く大きく廣く斷然他の追隨を許さないものであることを見まして、私共は同じ學園の同僚として大きな誇りを感じるのであります。これが就て、私共の更に猶大きな誇りを感じて居りますことは我が寺本教授が、この西藏研究の方面に於いて、その開拓者として指導者として重大な役割を果遂せられたことであります。

事の成るのは一日にして成るのではない、長い間の勞苦が積み重ねられて漸やくにして成るのであります。今西藏の研究が今日、その偉大な成績を示して居ることに就ては、私共はそこに容易ならざる犠牲が拂はれてゐたことを考へなければなりません。その一つは我が大谷派の先輩である能美寛氏がこの研究のために、支那の山奥に於て命を落して居られることでもあります。かうした犠牲の血が、後進の研究者の上に刺激となり、感奮となり、その研究に光彩を添へてゐることは云ふまでもないこ

こであります。西藏の研究は特にその性質上、又日本の學界の遅れた仲間入といふ事情上、特に私はこの拂はれた犠牲の多かつたこころを尊みかつたこころを思ふものであります。特に日本の西藏研究に於て、忘れてならないこころの一は、我が寺本教授の北京版西藏經の將來であります。今日でこそ西藏經の各版が相續いて日本へ入つて参りますが、寺本教授の北京版西藏經の將來は頗る早く、茲に豊富なる研究の對照物を提供して、その時よりして、西藏研究の今日の隆盛が約束せられたのであります。爾來三十年、寺本教授はその一身をこの方面の研究に捧げられ、後進を指導し養成するに共に、その勢力を傾注せられた研究を發表せられて來たのであります。今申しますやうに西藏研究論文總目錄に於て私共の見まするやうに、教授の研究は、その量に於ても又質に於ても、斷然群を抜いて光つてゐるのであります。今日の西藏研究の隆盛がその大いなる部分を教授に負ふと言ふも、決して私の同僚に媚ぶる語ではないと許して頂けると思ふのであります。

然し乍ら又更に一面から考へて見まするに、この目錄に顯はれたところに依れば、西藏及び西藏佛教に關する研究は他の方面の佛教研究に比較して進んでゐることははれないと思ふのであります。それはその性質上止むを得ないこころであります。猶漸やくにしてその眞の糸口を見出したといふに過ぎないとも曰はれるかと思ふのであります。それは研究に缺く可からざる基礎工事の多くを缺いて居るやうにも思はれるのであります。西藏佛教の研究が持つ本然の意味が十分に發揮せられてゐないに云ふこころも出来るやうに思ふのであります。佛教自體の研究の趨勢の上から申しましても、西藏佛教の研究が當然要求し得るその位置の確保はこれからであるに申さねばならぬやうにも思ふのであります。このかゝる西藏研究の重大な時期に置きまして、この講演會を展觀は相當な寄與をなし得るに相違ないと思ひまして、私共は祕かに大きな喜びを抱いて居る次第であります。この講演會の開催に就きまして、私共は石濱純太郎氏がその研究の御生活の非常に御多忙なるにも拘らず出

講を御承諾下さいまして、御専門の西域關係の御研究の
蘊蓄の一端を御洩し下さることを大いなる幸とするも
のであります。又我が寺本教授が嘗て死生を賭して入
藏せられました艱難ニ困苦ニ興味の目を懐古して御實
話下さることは、私共の非常な興味をそゝるに共に、私
個人に致しましても、嘗て教授がその入藏を果して歸朝
せられた時、東京に於て初めて御目に掛つた教授の若き
日を思ひ起してなつかしく感ずる次第であります。

これを以て開會の御挨拶とし、兩氏の御講演に對し皆
様の御清聽を希望致す次第であります。